

かながわ さとおや

第120号

2023 年 7 月 発行

発行 神奈川県里親会

藤沢市みその台 1-3

聖園子供の家 気付

<http://kanagawa-satooya.jp>

印刷 アサヒ企画

大井町金子 910

おとうさんと。

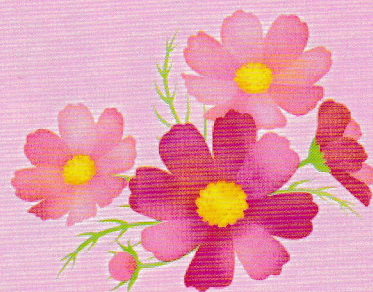
掲載記事

- ・ 第3回かながわさとおやの集い
- ・ 全国里親大会，関東甲信越静里親協議会に参加して
- ・ 各地区里親会活動報告
- ・ 県央里親会 50 周年記念
- ・ 施設紹介「神奈川県立子ども自立生活支援センター」
- ・ 編集後記

神奈川県里親会主催 2022 年度

第3回 かながわさとおやの集い

「テーマ de サロン」



神奈川県里親会は5地区の里親会が集まった里親会です。

第3回の「かながわさとおやの集い」は各地区でテーマを決め、サロン形式の研修会にしました。

地区里親会では会員の人数に限りがあり、同じ想いを共有できる仲間がいないと感じることもしばしばあります。そこで今会員の皆さんが気になる話題をテーマにして、5つ用意したサロンにいくつでも参加できるようにしました。「サロン」という名の集まりは地区里親会単体でも、関係機関でもよく行われます。今回の神奈川県里親会のサロンの目的のひとつは、地区を超えて多くの人と出会える機会となり、同じ里親同士、同じ想いを持つ仲間同士が親しくなれる場となることを期待して開催しました。

11月3日(木・祝)	「未委託」	小田原合同庁舎
11月12日(土)	「複数委託」	厚木合同庁舎
11月12日(土)	「真実告知」	鎌倉生涯学習センター
11月26日(土)	「3日里親」	中央児童相談所
12月10日(土)	「発達障害」	平塚児童相談所

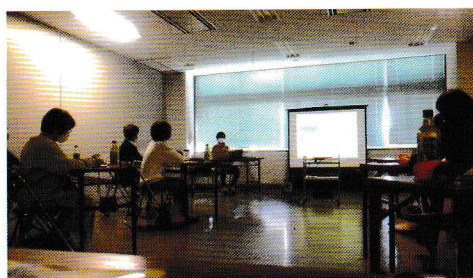
～未委託～

11月3日(木・祝)

神奈川県が令和2年度より10年計画で「社会的養育推進計画」をすすめているのはご存じですか？ この「未委託」のテーマで行ったサロンでは、神奈川県子ども家庭課の永江氏をお迎えして、サロンを始める前に「社会的養育推進計画」について1時間ほど説明をしていただきました。これは里親委託を推進する計画でもあります。私たち里親が、この計画にはとても大切で必要とされる存在であることを示しています。委託を待つ里親がいるのは事実です。現在委託のない里親にとって明るい未来があることを保障されているような話でもありました。

その後のサロンでは地域を超えての交流がありました。委託を受けていた時の体験談を聞いたり、現在の子どものいない心情を話したり、時間を忘れて話し合うことができました。参加者は14名でしたが、3つのグループに分かれてサロンを行ったため、少人数ならではの本音トークもあって有意義な時間でした。

子どものいない里親の気持ちをサロンにも参加して下さった永江さんに聞いていただけたことは嬉しかったです。



～複数委託～

11月12日（土）

参加者 17 名、同じ会議室の一角で児童相談所の職員、里親支援専門相談員の方々に子ども 10 名の保育をお願いしながらのにぎやかなサロンとなりました。3 グループに分かれ、それぞれのグループで、複数委託を検討しつつも様々な心配事がある方や現在複数の里子を養育しながら悩み事を抱えている方などから、複数委託経験者に多くの質問がなされ、経験豊富な里親がアドバイスをしたりお互いに意見交換をしたりと活発なやりとりがありました。最後に各グループの代表者が話し合いの内容を発表し、会場全体でシェアしました。

○複数委託の難しさの一つは、新たに委託される子どもだけでなく、もともといた里子や実子にとっても大きな環境の変化・精神的衝撃を与えることであり、委託のタイミングやもともからいる子どもへのケアが重要である。

○複数委託によって、子どもたちが遊んだりけんかしたりしながら社会性を身につけたり、新たな里子が来ることで里子であることを自然に受け入れられるようになる。

○里親が疲れ切ってしまうようレスパイトを積極的に利用して休息やリフレッシュの時間を持ったほうがよい。悩みを吐き出したり、第三者の目で子どもの様子を見てもらったりできるという意味でも、積極的にサロンに参加するなど里親同士のつながりも大切である。

など様々な参考になる意見を聞くことができ、有意義な時間となりました。



～3日里親～

11月26日（土）

11月26日、雨が上がった昼下がり、中央児童相談所に 12 名の里親と 4 名の関係職員が集い、3日里親についてのサロンが開催されました。和やかな雰囲気の中、会長の挨拶の後、中央児童相談所の後藤様から3日里親の制度と現状、実績についてのご説明がありました。

3日里親は、コロナ禍の影響によって大幅に活動が制約され、委託数が以前より減っている実態があります。ですが、細く長く続けている里親が多く、施設生活をベースにしている子ども達にとって、貴重な家庭体験になっているとのことでした。

続けて、2名のベテラン里親の体験談もありました。3日里親には、里子の施設での日常生活が見えない困難が伴います。子どもたちの心の拠り所としてご継続されてきた苦心や努力、喜びについて聞き入りました。

サロンの参加者からは「リアルな体験談を聴くことが出来て、勉強になりました。」という声や、「児童相談所・施設・里親で連携する大切さが分かりました。」といった声がありました。

質疑応答や意見交換も活発に交わされ、3日里親の役割や難しさに思いを馳せる、充実した時間になりました。



～真実告知～

11月12日（土）

棲みきった秋空が広がる11月12日鎌倉生涯学習センターにて「真実告知」のテーマでサロンを開催しました。参加は13名。最初に16名の里子委託を受けているベテラン里父である星野 崇里親からお話を聞きました。20年ほど前には「どうやって里子であることを本人や地域で隠すか？」という議論もあった時代から「真実に語ることの大切さ」に考える・学ぶようになってきた状況や里子の気持ちを考える重要性について事例や子どもの権利条約の変遷を通して説明がありました。

講義後は全員でそれぞれの思いを出し合い「一人ひとり意見を出し、さまざまな里親としての思いを聞くことができた」「里子が特に生みの母に深い思いがあることを理解できた」「子どもの性格や家庭の状況がさまざま。夫婦でよく話し合いながら対応を続けていきたい」などたくさんの意見交換ができ、少人数の参加でしたが有意義なサロンになりました。



～発達障害～

11月3日（木・祝）

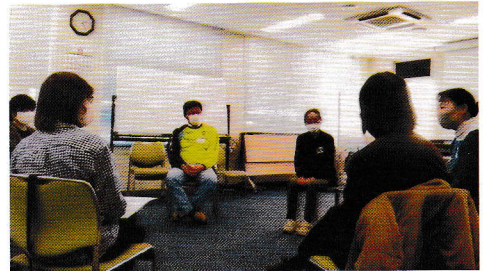
発達障害というテーマに沿って、参加者が日ごろ感じていること、困っていること、実践していることなど、率直に意見を出し合える和やかなサロンでした。参加者が7名と少人数だったので、とてもゆっくり話すことができました。

＜参加者の感想＞

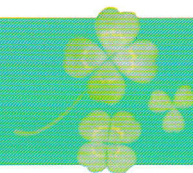
- ・今回は人数が少なかったのでゆっくり話せて良かったです。
- ・他の方が実践されている方法を見習いたいと思いました。いつもと違う人のお話が聞けて良かったです。
- ・これまで自分の中で溜め込んでいた苦労話を皆さんに聞いてもらうことでスッキリした。

同じような立場でなやんでいるかたに「わかる、わかる！うちもそう！」と共感してもらえたことが一番嬉しかったです。

- ・他の家庭でのお子さんとのかかわり方を聞かせて頂けて良かったです。同じ環境でいらっしゃる方と「うん、うん。わかる。わかる」と話げできたことが何よりうれしかったです。
- ・発達障害について何かヒントになる事があればと思ってきました。特にレクチャーなしで始まりましたが、皆様のご経験談がとても参考になりました。まだまだ勉強しないといけないという思いを新たにしつつとても励まされました。ありがとうございました。参加して良かったです。
- ・自分で発達障害のお子さんを育ててはいませんが、対応について勉強になりました。障害や、その子どもの特徴を理解して細かい対応ができるよう工夫されていることがよくわかりました。親の気持ち押し付けるのではなく、子どもが何を望んでいるのかを考えていくことが大切であると感じました。
- ・今回の話の中では、里親さん自身がまず自分の特性を知っていて、そのうえで子どもの特徴を理解して、日々工夫をしながらの生活を送っていることがわかりました。里親さんは誰よりもその子にとってのスペシャリストであると思いました。（里親支援専門相談員）



全国大会・関東甲信越静里親協議会に参加して



大会に出席すると、必ず「里親信条」を全員で朗読しますのでご紹介します。

（基本理念）

私たち里親は、保護者による養育が困難な子どもを家庭に迎え入れ、子どもに寄り添った養育を行います。

（子どもの権利擁護）

私たち里親は、子どもの権利を擁護し、最善の利益に配慮した養育に努めます。

（社会的養護）

私たち里親は、社会的養護の役割を担うものとして、地域社会とのつながりを大切にして、養育を行います。

（子どもの発達保障）

私たち里親は、子どもの健やかな成長のため、家庭養護の良さを活かし、子ども一人ひとりにあった養育にあたります。

（里親としての資質・専門性の向上）

私たち里親は、自らの家庭をととのえ、子どもの養育に必要な知識と技術の向上に努めます。

平成 26 年 3 月改定

2022 年度の第 67 回全国里親大会・第 68 回関東甲信越静里親協議会やまなし大会は対面とオンラインの参加がありました。オンラインで参加した方の感想をお聞きしましたのでご紹介します。

はじめに、近年の全国大会状況ですが、第 64 回仙台市大会は台風で中止、第 65 回徳島大会はコロナ禍にあって中止と、大会主催者にとっても参加希望者にとっても残念な状況が続きました。やっと開催された昨年度の第 66 回福岡市大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で初のオンラインのみの参加となりましたが、今回は、感染防止のために人数制限があったものの、対面来場（173 名）とオンライン（316 名）・オンデマンドを組み合わせたハイブリッド開催となり、大勢のスタッフの協力により大会が実現しました。私は自身の都合でオンライン参加としました。2 年続けてオンライン参加を経験し、オンラインと対面方式のそれぞれのメリットを挙げてみたいと思います。

オンラインのメリット

- ・開催が遠隔地でも参加できる。
（交通費、宿泊費がかからない）
- ・拘束時間にとらわれない。
（休憩時間に家事をしながらでも）
- ・オンデマンド配信で、同時開催の講義内容も後日に受講することができる。（他の分科会等）

対面方式のメリット

- ・年に一度、大会会場で全国の里親仲間と交流できる。
- ・懇親会等で他地域の里親と様々な情報交換ができる。
- ・里親のみでなく里子同士の繋がりがもてる。
（今回はコロナ感染対策の関係で、子ども企画や託児は中止）

オンラインでは、やはり人同士の繋がりが希薄になってしまうということではないでしょうか。コロナ前は、時間が許せば、その時々委託中の里子とともに全国里親大会へし、養育への新たな力をもらえた気がします。里子も、前回遊んだ友だちを覚えていてそこで出会った里親仲間と子育ての悩みを共有し、養育への新たな力をもらえた気がします。里子も、前回遊んだ友だちを覚えていて再会を喜んでいました。対面かオンラインかは、それぞれの利点がありますので、個々の状況に応じて使い分けるのも一考かと思いました。

湘南・大和里親会

今年は、5月に江ノ島の海岸で、曇り空での地引網を楽しみましたが、秋は恒例のハロウィンパーティーです。11月3日、秋晴れの下、子どもも大人も、そしてワンちゃんも、みんな相模川河畔の県立相模三川公園に集合して楽しいひとときを過ごしました。スパイダーマン、ミニオン、風船家族、スパイファミリー・・・思い通りの仮装をして仮装コンテストやかけっこで楽しみ、笑顔があふれる半日でした。公園を散歩する方からは「楽しそうですね。どういう集まりですか？」などと声をかけられました。子どもだけではなく、若者でもない大人がこんなに仮装に力をいれているのは珍しいことかもしれません。



鎌倉三浦地域里親会

今期数年ぶりにサロンや行事の開催ができました。6月は「ランチサロン」を行い、大人限定で10名参加しました。海が見えるレストランでお互いの近況を伝えながら、おしゃべりに花が咲いたサロンでした。

10月は、「里親体験談」として3日里親で高校生の女の子と1年3か月過ごした体験談をO氏がしました。コミュニケーションとして一緒に台所に立ちながらの作業、交換日記を活用するなど少しずつ子どもの気持ちに寄り添っていった経過を聞き、体験談のあと、皆で意見交換をしました。



同じ10月の「みかん狩り」は21名の参加でした。甘酸っぱいみかんを頬張りながら子どもたちがみかん山を駆け回る賑やかなレクリエーションになりました。

12月は毎年恒例のクリスマス会。32名の参加です。児童相談所の方がサンタとトナカイに扮して子どもたちにプレゼント。ピアノ伴奏が流れる中、皆でクリスマスソングを唄い、歌を披露する子ども、紙芝居や絵本を楽しむ子ども、おしゃべりを楽しむ大人たち。久しぶりの親子交流で賑やかに過ごしました。

西湘なでしこ会

10月16日に「バルーンアート教室」を開催しました。大人14名、子ども7名の参加で、バルーンで作る剣とプードルを講師のベンジャミンさんから教えてもらいました。たまに「パン！」と風船は割れることもありますが、それも楽しく、笑顔の絶えない教室でした。もちろんベンジャミンさんにパフォーマンスでたくさんのバルーンアートを作っていただき、子どもたちはお土産のひとつになりました。

おしゃべりサロンは年間3回行い、自由に気ままにテーマのないおしゃべりに会員同士の絆を強くする良い機会となりました。

また、施設見学を3月1日に行いました。児童養護施設「強羅暁の星園」にお邪魔して、施設での子どもたちの様子を聞きながら、施設内各所や実際子どもたちが生活している部屋を見せていただき、大変勉強になりました。

なかなかコロナ禍にあって思うようにならない場面もありましたが、少しずついろんなことができつつあるようになって、これからの活動につなげていく年となりました。



あおぞら里親会

今年度は、あおぞらサロンを4月、6月、9月、12月、2月の5回開催しました。真実告知や、子どもの発達のことなど、各回ざっくばらんに語り合い、交流を深め、会員同士の情報交換の場となりました。平塚児童相談所との共催で研修会も2回開催しました。

7月2日 第1回 『子どもを育てること』～これって成長？

講師 平塚保健福祉事務所 保健福祉課 富岡順子課長

会場 小田原合同庁舎

参加者 49名(大人29/子ども11/保育スタッフ9)

11月3日 第2回 『「自己肯定感を高めるための支援プログラム」について』

講師 神奈川県教育委員会 武下憲史指導主事 会場 秦野市保健福祉センター

参加者 44名(大人24/子ども11/保育スタッフ9)



夏季レクリエーションとして予定していた『夏祭り』は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりましたが、3月25日(土)大磯町にある世代交流センターさざんか荘にて『春祭り』を開催しました。大人24名、子ども12名に加えて高校生ボランティア3名の参加があり、親子体操、ボーリング、おやつづくりなどで、楽しい時間を過ごしました。

また、あおぞら里親会への要望、期待などの意見を募集するアンケートを実施しました。貴重なご意見をたくさんいただいたので、これからの活動に生かしていきたいと思います。

県央里親会

県央里親会ではここ数年、7月上旬に夏季親子レクリエーションと称して、藤沢市遠藤にある弁慶果樹園さんでバーベキューを実施していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響による休止があり、感染防止策が可能なイベントを模索しました。

2022年度は親子で楽しく素人も経験者も一緒に遊べるイベントとして、海老名市社家にあるアストレアスポーツクラブを2時間貸し切り、トランポリンを実施しました。子ども17名、大人24名と41名の参加者があり、初めての方からトランポリン経験者の子どももいて、各自技能レベルにあった遊びを楽しみました。経験のある子どもから大人が飛び方を教わることもあり、スポーツを通じて活発な交流があったのは、次に繋がる結果となりました。

県央里親会（通称；すこやかのかい）50周年を迎えて 曾我 幸治

私自身は平成15年に認定登録され、20年になります。5人のお子さんを預かりながら里親会の皆さんと一緒に活動してきて、たくさんのイベントや話し合いの中で、貴重な人生のアドバイスをいただくなど、毎年、毎年、充実した日々を過ごすことができたと思っております。

県央の理事も長年やってきたこともあり、県央里親会は、これまでの歴代会長、理事、相談員、会員、里子さんの皆様をはじめ、厚木児童相談所、唐池学園、関連団体など、多くの方々のご尽力、ご苦労、ご協力が、幾重にも積み重なって、50年を迎えることができたこと、真に実感しています。

これまでを振り返ると特に、里親同士、児童相談所、児童養護施設の職員の方々とは話す機会がとても多くあり、イベントを企画するときや宿泊研修など、何か活動しようとするときは、いつもみんな一緒に力を合わせ、行動してきたという印象が強くあります。会員の皆さんが、「行かなければならない」ではなく、「行きたい」と思える関係が構築できているからだと思います。毎年、大人だけで70名以上が参加していただける4月の総会だけでも、これを証明しているといっても過言ではありません。

これまで尽力された県央里親会の先輩方！このような伝統は、我々が必ず引き継いでいきますのでご安心下さい！！

施設紹介▶▶▶

神奈川県立子ども自立生活支援センター

住所 平塚市片岡 991-1

ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/g2n/index.htm>

電話番号 0463-56-0303

職員配置 施設長 児童指導員 保育士 医師 看護師 心理士 ケースワーカー
発達障害支援アドバイザー 栄養士 里親支援専門相談員 等



児童定員

- 乳児院（0歳から概ね2歳までの子ども）：12名
- 福祉型障害児入所施設（幼児から概ね高校生年齢で知的障害のある子ども）：42名
- 児童心理治療施設（幼児から概ね中学生年齢で、さまざまな環境上の理由により社会生活への適応に困難さを抱える子ども）：42名

基本理念

- (1) 温かい生活を提供し、子どもの「生きる力」と「つながる力」を育みます。
- (2) 一人ひとりの子どもに寄り添い、最善の利益を優先した支援を行います。
- (3) 施設の専門機能を生かして地域に貢献します。

子ども自立生活支援センターは平成29年4月に開所し、今年で7年目を迎える施設です。当センターは、乳児院・障害児入所施設・児童心理治療施設の3つの施設を併設し、一体的に運営する全国でも珍しい複合型の施設です。社会が複雑化・多様化する中、子どもたちを取り巻く環境も変化し、さまざまな理由で「生きづらさ」を抱えた子どもたちが存在しています。当センターは、そうした子どもたちに安全で安心できる居場所を提供するとともに、それぞれの施設の特色を活かして心理・医療等の専門的ケアを行い、一人ひとりの子どもに応じた自立を支援する施設として開設されました。



当センターには「きらり」という愛称があります。施設を利用する子どもやご家族、地域の皆様が親しみを持てる施設となるよう、地域の皆様や関係者に愛称を募り、たくさんご提案をいただいた中から選ばれました。この愛称には、「一人ひとりの子どもたちが、きらきら輝けますように」という思いが込められています。

そんな思いを託された当センターは、開所からこれまで、3つの施設を融合させながら、子どもたちに安心できる生活と、様々なことにチャレンジする機会を提供し、「生きる力」「つながる力」を育むことに努めてきました。これからは、一人ひとりの子どもを大切にする施設であるとともに、当センターの持つ専門機能を活かして地域への貢献を積極的に進めたいと考えており、里親の皆様にとってもより身近でお役に立てるような施設になれるよう取り組んでいきたいと思っています。

編集後記

コロナ禍にあっても、少しずつ活動ができるようになってきました。今回久しぶりに各地区の活動報告ができたことを嬉しく思います。これからますます活動が盛んになって、神奈川県里親会の広報誌「かながわさとおや」でその様子をお伝えできるようになれば幸いです。この120号が遅れての発行になりましたことをこの場をお借りして深くお詫び申し上げます。